



## 感染症対策を講じて”演劇教室”を実施しました

昨年度は、感染予防のために中止の判断をしました。今年度も、例年通りの実施方法では中止の判断をせざるを得ない状況でしたが、無理を言って、1日に3公演をしていただくことを条件にお願いしたところ快諾を得られたため、実施する運びとなりました。

1日に3公演という、かなり無理な依頼をしてしまいましたが、3密を回避しながら、安全に楽しく演劇教室を実施するためには、どうしても譲れない対策だと考えてのことでした。

公演をしてくださった劇団は「民話芸術座」といい、1976年の創設以来、本当の優しさや勇気をテーマに、日本全国の小・中学校の体育館での巡回公演を中心に活動を続けています。

今回は、手塚治虫の「雨ふり小僧」を原作とし、民話芸術座なりの解釈による脚色で、20年のロングラン公演になっているとのこと。では、少しだけあらすじを紹介しましょう。

「モウ太」は山奥の分校のたった一人の中学生。いつも周囲のお友だちからからかわれるばかり。一人ぼっちのモウ太は、せめて一人でも仲間がほしいと思っていました。そんなある日、モウ太は雨ふり小僧という妖怪に出会います。雨ふり小僧は、モウ太の履いていた長靴を欲しがりました。そして『3つの願いを叶えたら長靴をあげる。…あの橋の下で待ってろ。きっとこの長靴持っていくから。』モウ太の言葉を信じ、雨ふり小僧はモウ太を待ち続けました。何年も何年も…。そして40年も過ぎたある日、モウ太は不意に雨ふり小僧との約束を思い出したのです。息を切らして約束の橋の下へ駆けつけると…。何と、雨ふり小僧はモウ太の言葉を信じて待っていたのです。

「40年前に交わした約束を思い出して行動に移したモウ太」と「40年間、決して信じて疑わなかった雨ふり小僧」。大人でも十分感動できる内容でした。子どもたちも、きっと心を動かされたことでしょう。

## 外国語の授業を見てきました

校庭側の窓からリズムカルな曲に乗って、楽しそうな英語の歌声が聞こえてきました。その歌声は、6年生の教室からでした。担任の先生が「主」になって授業を進め、ALTのシャリー先生が「副」として補助的役割を担っています。このように2人の先生方がそれぞれの役割を担いながら、連携して授業を行っていくことを”チームティーチング(TT)”と言います。担任とALTは、次の1時間の授業をどう進めていくか、事前にコミュニケーションを図ってなければなりません。また、2人の先生方がコミュニケーションのモデルを示すことも



大切になってきます。担任の先生が「英語は苦手だから」と活動に参加せず、英語を使うことに消極的な態度であれば、児童から積極的に英語を話そうとする意欲を引き出すことは難しいといっても過言ではないでしょう。学級担任がALTと堂々と英語を使って話している姿を見せることが、

児童にとって良いコミュニケーションのモデルとなることは間違いありません。先生方も、始めから英語が得意だったわけではありません。ですから、頑張っています！

現在、本校のALTとして勤務をしてくださっている先生は、飯島・マリア・チャーリーさんと言います。出身はフィリピンです。日本に来てから、もう28年も経っているので、何の違和感もなく話をすることができます。そのため、先生方も安心して打合せを行うことができ助かっているようです。ちなみにチャーリー先生ですが、趣味は「ガーデニング」だそうです。また、英語を好きになるコツをお聞きしたところ、「〇〇に行ってみよう。」「〇〇の国の人と話してみよう」というように、ゴール(目標)を持つことだそうです。英会話ができる人って憧れますよね。

## 冷蔵庫を1台調達しました

食物のアレルギー反応による学校事故は、残念ながら全国で後を絶ちません。その中でも、特に重症な場合をアナフィラキシーといい、このような場合、2つ以上の重い症状が同時に起こったことを言います。例えば、全身のじんましんと喘息が起こったときや、繰り返してはいて同時に動悸がするときなどがアナフィラキシーにあたります。さらに血圧が下がって、意識がもうろうとした症状もみられたときはアナフィラキシーショックといって、もし起こったら、できるだけ早く適切な処置や治療をしないと生命に危険が生じるような事態に発展してしまうこともあります。アナフィラキシーは即時型アレルギー症状の一つなので、症状をおこさないためには、原因となるものを食べない(接触しない)ことが必要になります。本校においては、給食のメニューにアナフィラキシーの原因物質が含まれる場合には、代替食(弁当)を持たせることになっています。朝、子どもから預かるのですが、衛生面でも心配になってくるために、これまで職員室内で先生方の飲み物などを入れるための冷蔵庫を代替食(弁当)の保管用に使っていました。しかし、代替食は先生方の飲み物等とも離れた方が、より安全だろうという観点から、ここ数日、あらゆる方面に聞き込みを行い、先日、ある甲府市内の学校で使っていない冷蔵庫が1台あるとの情報を入手しました。そこで早速、再活用させていただきたいと、問い合わせを行い、昨日、教育委員会のご協力により、無事、調達することができました。引き続き、ご家庭と連携しながら、アナフィラキシーの防止に万全を期して参りたいと考えております。



## 「GIGAスクール構想」って何？

GIGAは、Global and Innovation Gateway for All の略です。一言で言うと、「児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」です。

児童生徒向け1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークという「ハード」は、あくまで土台であり、GIGAスクール構想の実現には「ソフト」と「指導体制」という両輪があって初めて動き・加速させていくことができます。

本校においても、全校児童分の端末と、その端末用の充電保管庫が設置されました。今週中に、先生方が全ての端末を1台1台セットアップをします。指導者である私たちは、上で言う「ソフト」。私たちが、先ず端末を扱えるよう、授業に生かす利用の仕方を習得できなければなりません。今年度は、校内の研究内容でもICT機器の活用にも迫ることになっています。1日も早く日常的に活用できるための体制を目指していきたいと考えています。

